

An aerial photograph of a town nestled in a valley. A wide river flows through the center, with a bridge crossing it. The town is surrounded by green hills and mountains in the distance, some with patches of snow. The sky is clear and blue.

赤谷プロジェクトから
みなかみBRへの展開

みなかみ町の自然をいかしたまちづくり

年月	取組内容
H16(2004) 9月	『谷川連峰・水と森林防人宣言』 ・合併の理念として旧3町村(月夜野町、水上町、新治村)にて宣言
H17(2005)10月	『みなかみ町』誕生
H20(2008) 3月	『エコタウンみなかみ～ふるさとの資源をいかした地域振興構想』
H20(2008) 9月	『みなかみ・水・「環境力」宣言』 ～水と森林を まもる・いかす・ひろめる力～
H21(2009) 4月	『みなかみ町民憲章』制定
H23(2011) 4月	『みなかみ町自然環境及び生物多様性を守り育てるため昆虫等の保護を推進する条例』の制定
H24(2012) 6月	谷川岳エコツーリズム推進全体構想の認定

豊かな自然をまもり・いかし・ひろめる取組を展開



みなかみ町民憲章

わたしたちは、清らかな利根の源流と
三国・谷川の豊かな自然に恵まれた
いで湯の町に誇りを持ち、
夢と希望に満ちた
活力ある町を築くための道しるべとして、
この町民憲章を制定します。

恵まれた自然と共生し
心ゆたかな町をつくります

歴史と文化を尊び
夢と希望に満ちた町をつくります

おもてなしの心で
笑顔あふれる町をつくります

みんなで力を合わせ
住みよい町をつくります



平成21年4月1日制定

みなかみ・水・「環境力」宣言

『宣言文』

—水と森林を まもる・いかす・ひろめる力—

水と森林の防人 ～ まもる力

奥利根・谷川連峰に生を受けた水は、水上、新泊を流れ、月夜野で合流し、坂東太郎(利根川)となって関東平野に生きる幾多の生命(いのち)を育みます。生命の水を蓄えるこの地には、地球温暖化を防ぐ広大な森林が広がっています。

水源の地に住む私たちは、万物が脈々と生存することを願い、自然の恵みに感謝し、この山と森林と川を守りつづける「水と森林の防人」となります。

水と森林の達人 ～ いかす力

天より授かった水は、大自然の景観、ダム、温泉、日常の暮らしや遊びの風景の中にあります。そして、飲み水や食物はもとより、産業を牽引するエネルギーや観光資源として、みなかみの経済活動を支えています。

水源の地に住む私たちは、自然に対する畏敬と感謝の念を抱き、持続可能な自然の営み、心に残る風景、貴重な資源を活かす技と智慧を身につけた「水と森林の達人」となります。

水と森林の使者 ～ ひろめる力

水はあまねく流れゆき、姿を変えて津々浦々に恵みをもたらします。奥利根・谷川連峰の水と森林は、私たちみなかみ町だけのものではありません。流域に暮らす人々をはじめ、首都圏のみなさんとの協働がもたられます。

水源の地に住む私たちは、水資源の大切さを伝え、取り組みの輪を広める「水と森林の使者」となります。

みなかみ町と赤谷プロジェクト

- ◇2011年(H23.4)より、赤谷プロジェクト地域協議会が加わり、3者協定となる。
- ◇みなかみ町議会にて赤谷プロジェクトとの連携について質問があり、当時の環境課が担当窓口となる。

赤谷プロジェクトとみなかみ町の 具体的な連携スタート。

- みなかみ町議会による現地視察。
- 町長、議員等によるクマタカの営巣地の見学。
- 町職員対象のイヌワシ見学会後開催。
- 町と三者による事務局会議の開催。
- 各種会議へのオブザーバー参加。など

BR登録までの経過

◇綾BRの登録について情報提供を受ける。

- ・綾町視察（赤谷プロジェクトメンバーを中心として）
→みなかみ全域を対象として登録を推進することを進言。
- ・エリア設定や基本的な概要を検討。
→町長に提案するが・・・
- ・「まちづくりビジョン策定委員会」にBR登録を提案。
→委員会によりBRの理念を核としたまちづくりを進める答申。

エコパーク推進室が設置（2014. 7）

登録申請が本格的にスタート

◇登録申請書作成に向けての人材確保
→NACS-Jに申請書作成にかかる業務を委託

・日本ユネスコ国内委員会に申請書概要の提出と意思表示
(H27.8)

◇「みなかみ町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」
に人と自然が共生したまちづくりを進めると明記。

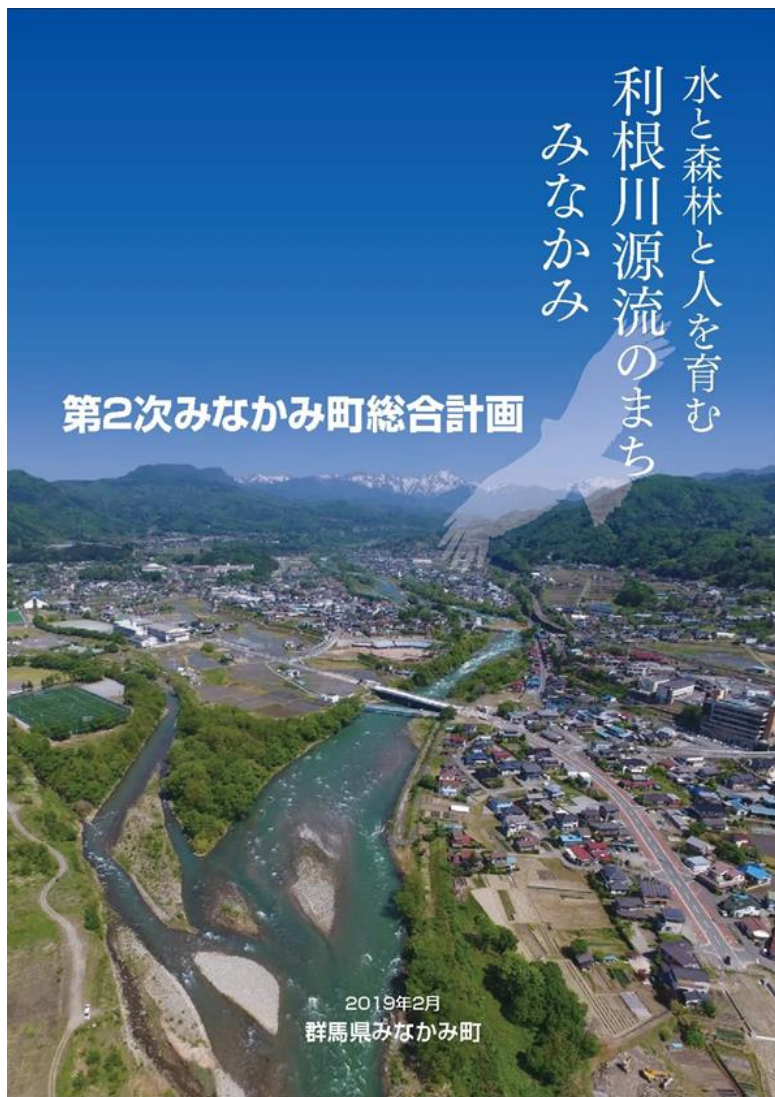
・H28 (2016) 8月：日本ユネスコ国内委員会へ申請書提出
国内推薦決定

・H28 (2016) 9月：日本ユネスコ国内委員会から
ユネスコ本部へ推薦

・ユネスコMAB計画国際調整理事会による審議

H29 (2017) 6月14日登録決定！

BRの理念をまちづくりの柱に！



第1章 まちづくりの方針

第1節 基本理念と将来像

1 基本理念

個性豊かで存在感のある「みなかみ町ならではの」まちづくりを推進するため、3つの基本理念を設定します。

豊かな自然環境や文化を未来につなぎ、 人と自然が共生するまちづくり

みなかみユネスコエコパークの豊かな自然や文化、芸術をはじめとした豊富な地域資源の保存や継承を心がけるとともに、地域経済の一助としての活用を図り、人間と自然が共生するまちづくりを目指します。

国内外から多くの人を訪れる、 世界中から愛されるまちづくり

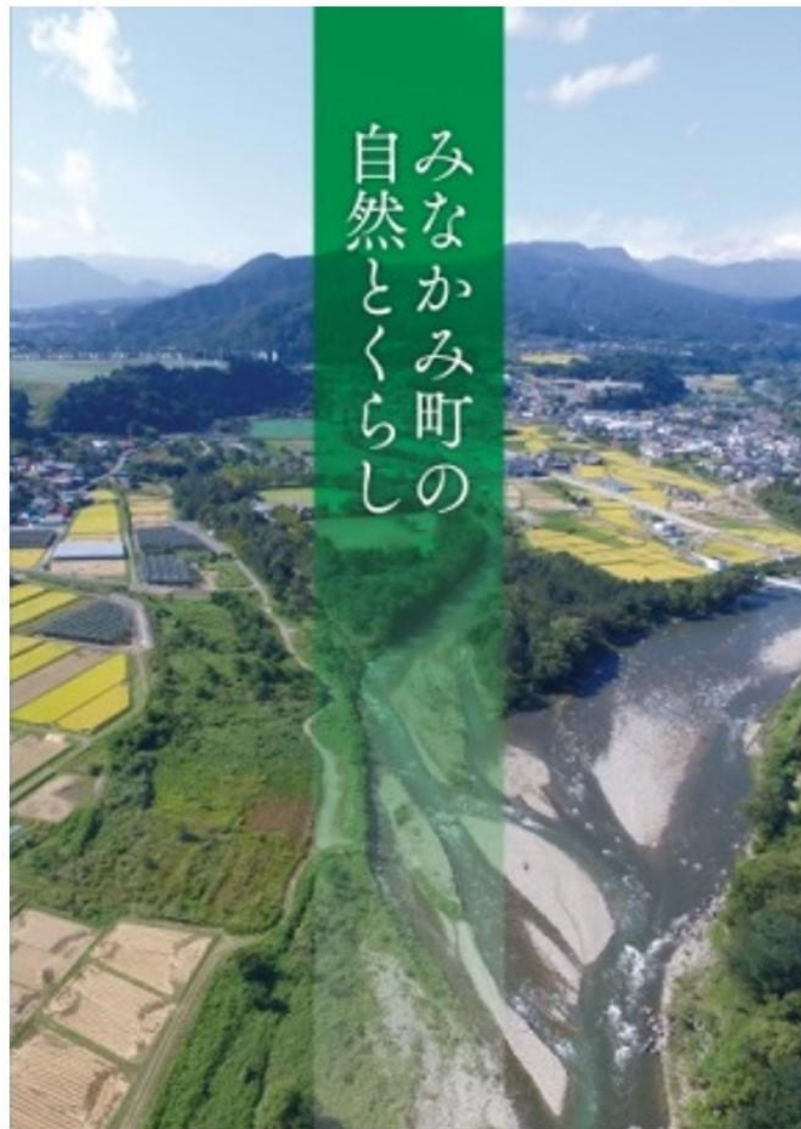
基幹産業である観光業の基盤をより一層強化し、商工業の活性化を図るなど、活力あるまちを目指します。また、数多くの温泉地や自然環境などの魅力を国内外問わず発信することにより、賑わいのあるまちづくりを目指します。

郷土愛に満ちあふれた「人」を育むまちづくり

町民が主体となって地域コミュニティ機能の向上や維持に関与することにより、自助・共助の精神が芽生えるとともに、郷土に対する愛着が育まれます。「地域に住み続けたい」「地域を良くしていきたい」「地域に貢献したい」という意欲の向上を図るとともに、次世代を担う子どもたちの郷土愛の醸成に向けたまちづくりを目指します。

「みなかみ町の自然とくらし」の作成

- ・町全体の自然環境を知るため、各専門分野の専門家に執筆を依頼し冊子を作成。



木育推進等のとりのくみ

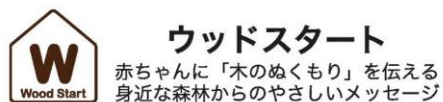
「森の恵みと学び家（現森のおもちゃの家）の設置」

・カスタネットをテーマに森や木のつながりを学ぶ。

・BRや赤谷プロジェクトの広報。

→ウツドスタート宣言、誕生祝い品、木育キャラバンの開催。

→広葉樹活用プロジェクト（オークヴィレツジ包括連携協定）



ウツドスタート

赤ちゃんに「木のぬくもり」を伝える
身近な森林からのやさしいメッセージ

みなかみ町誕生祝い品

森のカスタネット

森のラトル



環境学習発表会の開催

- ・赤谷プロジェクト10周年関連イベントで行われた新治小学校のイヌワシのプレゼンを見学し、町内の全学校に働きかけ第1回目を開催。
- ・コロナ禍での動画による開催を挟みながら、本日第9回を実施。



これまでの20年

- ・BR登録は、これまでこの地域に暮らしてきた方々の行いが評価されたことと言えます。
- ・赤谷PRJが、大きな時代の変化の中で将来を見据え、生物多様性の保全と持続可能な地域づくりを目指し、日本のトップランナーとして進んできたその成果の一つが、BR登録であり、まさにみなかみ町のまちづくりの中心的な考え方に息づいています。
- ・プロジェクト開始までを第1フェーズ、プロジェクト開始から町との連携がスタートするまでの第2フェーズ、その後、BR登録から20周年を迎えるこれまでの間を第3フェーズと捉えることができると思います。

これからの10年

- ・赤谷プロジェクト20周年を迎え、新たなフェーズとして、より持続可能な地域づくりを目指し、多くの方が参加できて、興味を持てる、地域自らの取り組みが期待されると考えます。
- ・個人として、地域協議会の会員として、いろいろな立場から、自分が楽しみながら、無理なく、持続可能なことを、ベクトルを合わせて、みんなが少しずつ考え、前に進んでいくことが大きな一歩になると感じています。
- ・少子化の状況の中で、子どもたちがずっと住み続けたいくなる、みなかみ町に暮らすことが、自慢に思えるようなまちを目指して、力を合わせていきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

